

啓示された神の栄光

2021年1月31日

詩篇 19篇

序：神は2つのものによって、ご自身を明らかに啓示

- (1) 自然（天然）界……神の創造されたものによって = 自然啓示・絵画
- (2) 聖書……神のことば = 特別啓示・文書

独立学園高等学校（山形） 愛真高等学校（島根）

キリスト教、農業と聖書

I. 自然啓示・絵画（1～6）

神（力強い・全能）の栄光の御業

天・大空・天体の創造 創世記1章

第1日 光

第4日 天体（太陽・月・星々） 昼と夜
月、季節

無言、無音、無声＝雄弁

全地に響き渡る
地の果てまで届く

壮大・無限

代表としての太陽（日輪）

幕屋（日没）（休息）⇒ 部屋から出る（夜明け）（活動開始）
日中は全力疾走・喜びをもって役目を果たす
仕える（主の証）

地上にあまねく光と熱を与える（照らし、輝かせ、温め、消毒）

人工的な光・環境の少ないところこそ、実感できる（例：シマイ山）
創造主を信じない者は、被造物を神とし、拝む、歌に詠む

II. 特別啓示・文書（7～11）

主のみことば＝聖書（ご性質と御業を啓示、自然界の解説）のすばらしさ
創造の冠である人間への慈愛の現れ
語りかける、有言、有声

■みことばとは

cf. 詩篇 119篇

(1) 主のおしえ

完全

たましいを生き返らせる（強め、慰め、力を与え、新たに作る）

(2) 主のあかし

確か

浅はかな者を賢くする（具体的指示、正しい判断、しっかり立たせる）

(3) 主の戒め

正しい（まっすぐ・歪みなし）

人の心を喜ばせる（道徳、良心にかなった生き方）

(4)主の仰せ（命令）

きよい

人の目を明るくする（よく見えるように）

(5)主からの恐れ（神への畏怖⇒従う）

きよい

永遠に不変（人は移ろい、変わる）

(6)主のさばき

まこと、ことごとく正しい

隣人との関係（義・真実）

■みことばへの賞賛・服従

(1)金・純金よりも価値がある

(2)蜜よりも甘い

(3)戒め、矯正

(4)守る者に、大きな報い

Ⅲ. みことば = 心の鏡

自然界から、自分の罪を指摘されることはないが。

■みことばは罪を写し出す

(1)過ちを悟らせる

(2)隠れている罪の赦しを求める（気づいていない罪）

(3)傲慢から守られるように祈る

■みことばは悔い改めと罪に対する勝利を与える

(1)大きな罪を免れる

(2)全き者となる

(3)自分を主が受け入れてくださるように、とへりくだる、確信する

■主への信頼を厳粛に告白し、委ねる

Ⅳ. 結び

神の栄光・力・知恵は造られた自然と神のことばにおいて現される

自然は聖書により解説されて初めて、私たちは正しく理解できる

神のことばは、自然によって具体的に描かれ、見える形となった

イエス・キリストがその究極・最たる存在

神の前に受け入れられる者とされることが、私たちの最大の願い、喜び

そのためには、神を知り、自分を知ること

罪人の自分が神に赦され、受け入れられるには、神の遣わされた贖い主、主を信じること

信じた者は主を揺るがない礎石として、堅固なる岩の上に人生を築く

主のことばを喜び、従う者には豊かな祝福がある